

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100435
法人名	株式会社 ことぶき
事業所名	グループホーム ゆずはなの里
所在地	松山市古三津3丁目17番5号
自己評価作成日	平成29年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームゆずはなの里は、2階建ての民家型施設です。こじんまりとした施設ですが、ご利用者様はお互いのプライバシーを尊重しながら過ごされています。建物が民家ということもあり、職員とご利用者様の距離感が近く、目が行き届くのが特徴です。施設内は温もりのある雰囲気があり、ご家族様にも安心していただけます。小さな庭では、職員と共に花を植え、季節感を感じていただき、また施設内では、季節の展示物を職員とご利用者様が一緒に作成し楽しんでおられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成28年度から法人代表者が交代し、それに伴い職員も全て入れ替えとなった機会に、事業所理念を見直した。法人代表者が提案した理念を職員で検討し、新たに「仁」と決定した。理念は、玄関に掲示している。
民家改修型の2階建ての事業所である。玄関壁に沿って季節の花が植えられ、庭には椿や水仙が咲いていた。玄関には、瀬戸物の立ち雛が飾られ、廊下の壁には利用者の書初めが貼られていた。調査訪問時、食卓で折り紙を楽しむ利用者が見られた。
利用者の希望で、毎月、お墓参りができるよう支援している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 株式会社 ことぶき

(ユニット名) ゆずはなの里

記入者(管理者)

氏名 小笠原 睦子

評価完了日 平成29年 2月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			日常的に、また職員会議において管理者と職員は、地域密着型サービスの意義や方針、理念について話し合い情報の共有をし、実践に繋げるように努力をしている。	
			(外部評価)	
			平成28年度から法人代表者が交代し、それに伴い職員も全て入れ替えとなった機会に、事業所理念を見直した。法人代表者が提案した理念を職員で検討し、新たに「仁」と決定した。理念は、玄関に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域のお祭りや消防訓練に職員と利用者が参加する事で、地域との繋がりが広がっている。運営推進会議には、毎回地域の方が3,4名参加して下さる。利用者の代表の方もほぼ毎回参加して下さり、地域の方、利用者、職員を交えて、より良いホーム作りとなるように助言をいただいたり話し合いをしている。	
			(外部評価)	
			散歩時には、近隣住民とあいさつを交わしたり、声をかけ合ったりしている。散歩中、近所の店でたこ焼きを買うのを楽しんでいる利用者もある。定期的に、ハンドマッサージやオカリナ演奏のボランティアを受け入れている。昨年のそうめん流しは、地域のボランティアが2名参加して行われた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議等、ホームを訪れた地域の人に入居者の様子や支援の方法等を伝えている。また、電話や来所時等、認知症や介護の方法等についての相談がある時には、対応を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議は2カ月に一回開催している。松山市介護 保険課職員、地域包括支援センター職員、地域の方、 利用者やご家族に参加をして頂き、アドバイスを頂い たり、意見交換を行いながらサービスの向上に努めて いる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議には、利用者や民生委員、町内会長、近隣住民等 が出席している。事業所の取組みや利用者の状況、 時には看取りの実践等を報告し、話し合っている。家 族に案内はしているが、出席には至っていない。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議時等において、松山市介護保険課の方や 地域包括支援センターの方から、直近のインフルエン ザやノロウイルス等の情報をいただき、それに向けて 対応を行うように努めている。また、地域包括支援セ ンター主催の連絡会等にも参加し、他事業所との情報 交換をすることによって、より良いサービスの向上に 努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時には、市の担当者から取組みについ ての質問や具体的な助言がある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束の意味を職員全員が理解し、拘束のないケア を実施している。日中は玄関の施錠はしていないが、 夜間は防犯を重視し、施錠を行う様にしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>日中は、玄関は施錠せず、気ままに出かける利用者には、 職員が付き添って支援している。二階の階段口には、 危険のないよう夜間のみ引き戸を閉めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者、職員は日常的に虐待を見過ごさない様、常に利用者の身体状態を見ている。職員会議では虐待についての勉強会を行い、虐待が見過ごされないように注意を払っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の中に成年後見制度を利用されている方がおられ、後見人（社会福祉協議会職員）の方が月に1回面会に来られる。管理者と職員は、成年後見制度を利用している方について、情報の共有とその必要性を話し合っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の際に、利用者または家族に対し、パンフレット、契約書、文書等で詳しく説明し理解して頂き、同意を得ている。また、後日不明な点がある場合には、いつでも連絡をして頂くようお願いをしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議では、家族からの意見や要望を取り入れている。また、管理者や職員は、家族の面会時等に、ホームへの意見や要望を聞き、その意見を反映し、利用者が気持ち良い生活を送ることができるように支援している。 (外部評価) 家族には、毎月の手紙や電話で日常の暮らしぶりや健康状態を報告している。面会時には、家族に写真を見せながら、生活状況を伝えている。高齢等のため、足が遠のきがちな家族もある。代表者の交代時には、運営推進会議や家族来訪時に報告を行った。	家族と一緒に勉強したり活動したりするような機会を積極的に設け、家族との関係を作ってほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者、管理者は、月1度の職員会議だけではなく、随時職員の意見や提案を聞き対応を行い、その意見を取り入れて運営に反映している。	
			(外部評価) 運営推進会議には、全職員が出席しており、司会や発表、書記等を担当している。法人代表者は週に2回は来訪し、職員の意見や提案を聞いている。地域の医療機関の研修に、職員は交替で毎月出席し、職員会議で周知している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は定期的、また随時ホームに来て職員との交流を行っている。また、管理者や職員と頻りに連絡を取り、利用者の状況の把握や職員の体調の変化に注意している。管理者や職員の毎月の勤務割り把握し、個々の希望休を全て取り入れ働きやすい環境を作っている。また、労働条件や給与水準を検討し、向上心を持って働けるように努めている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、管理者や職員のケアの力量を把握して、社外研修情報や研修参加資料を提供している。その中から職員の希望での参加や、また勉強してほしい研修があれば、指名し参加してもらうことがある。社内では、管理者や先輩職員が新人職員に随時ケアの方法を指導し、働きながらスキルアップができるようになっている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者が運営しているグループホームゆずはなの里とグループホームゆうかの里の2施設間で、職員の移動研修を行っている。また、2施設の各管理者での管理者会を行っている。他事業所の地域包括支援センター主催の連絡会の勉強会においては、意見交換をし長所を見習い、サービスの質向上の取り組みに活かしている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、信頼関係を構築するように努めている。会話の中から趣味や生活習慣等を聞き出し、安心して楽しく過ごす事ができるような関係づくりに努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始前に家族から利用者本人の生活歴を伺う中で、家族が困っていることや心配なことをよく聞き、家族が安心を確保できるような信頼関係を築くよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス利用前に利用者本人や家族と面会したり、部屋を見学をして頂いている。利用に際し、出来ないサービスがある事を伝え、理解を得るようにしている。他サービスについては、利用者に合うサービスがあれば、それを受けることが出来るような対応を行っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯機のセット、洗濯物の取り入れや洗濯たたみ、その個別の仕分けと分配、食事の配膳のセット、食事用のお盆拭き、庭の水やりや草取り、また買い物を利用者と職員が一緒に行い、家事作業を共にする事で信頼関係を築いている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族から連絡があった際や、面会に来られた際に家族の要望を伺ったり、利用者本人の日常生活の状況をお話しし、利用者本人と家族との信頼を深めるように努めている。また、家族には利用者が希望していることや、職員の支援の方法についてお話し、職員も家族と共に利用者を支えていることをお伝えしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者がこれまで大切にしてきた思い出や家族の話、以前住んでいた場所の話等含んだ会話をしている。外出時に利用者の希望を聞き、おやつのお買い物や定期的なお墓参り等、昔からの馴染みのある場所へ行く事が出来るように支援している。 (外部評価) 利用者の希望で、毎月、お墓参りができるよう支援している。入用になった品を自宅に取りに帰りたいという利用者もあり、対応して支援している。友人の来訪時には、お茶を出して居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士がお互いを理解し合い、プライバシーを大切に共同生活を送られている。一人ひとりが孤立することのないように、常に職員が声掛けを行っている。利用者同士のトラブルがあった場合には、中立な立場で両者の話を聞き、お互いの立場を理解できるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、必要に応じて家族と連絡を取り合い、本人や家族をフォローし、関係を断ち切らぬように相談や支援に努めている。また、利用経過がスムーズにわかる様に情報提供や相談を行う様にしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の様子観察を行い、普段の会話・表情等から本人の思いや意向を把握する様に努めている。困難な場合は、本人本位を検討し、また職員が話し合いの場を持つよう努めている。 (外部評価) 職員の総入れ替えに伴い、現在、利用者一人ひとりの思いや意向の把握や共有については、今後の取り組みとなっている。	今後、利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、今後の暮らし方の希望等についての情報を蓄積し、アセスメントの充実に取り組み、介護計画に反映する仕組みづくりが期待される。又、日々の介護記録の書き方等を工夫して、利用者がより良く暮らせるように活用してほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族から利用者本人の情報提供や、また利用者本人との会話の中から、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、心身状態や有する能力を知り、これまでのサービス利用経過等の把握を行っている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々、利用者一人一人の生活リズム、状態を観察し、現状での有する能力等をホーム日誌や介護記録に記入している。また、職員全員が利用者との会話を通して心身状況を把握する様に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者や家族からお話をお聞きし、その内容と利用者の心身状態等を考慮し、どのような介護が適切であるか職員間で話し合って介護計画を手立てている。ご本人とご家族には、介護計画を説明または配布し、確認後署名捺印をしてもらい、確認を行っている。	
			(外部評価) 日々の「ケアプラン実施表」にて、介護計画が実践できたかどうかを5段階で評価している。実践できなかった理由も明記して、3～6ヶ月ごとの介護計画の見直しにつなげている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 情報共有の記録としてホーム日誌の活用、日々のカルテのような24時間状況記録は介護記録で職員間で共有している。	
			(外部評価)	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その人らしさを出すために本人の状況を考えながら、家族の意向を取り入れながら、職員間で相談・検討をした上に、支援の個別化やサービスの多機能化を図る。	
			(外部評価)	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源で支援利用者の心身状況を考慮しながら、地域防災に参加し、「こんにちわ」を交わしたり、地方祭りで神輿を招き、一緒に「わっしょい」を唱えたり、近所のハンドマッサージの方にしてもらい、「ありがとう」と伝えている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 定期的受診日を設け、健康支援を行う一方、体調が悪 い時は、係りつけによる24時間の訪問診療体制を取っ ている。時には、ホームにご家族を招いてケア会議を 開くなど、終の棲家として本人とご家族とも相談体制 を取っている。係りつけ以外にも専門科に受診も支援 を行っている。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医の往診、訪問看護が週に1度ずつある。 受診は、職員が同行して支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 再生会訪問看護ステーションとの間に週1回訪問看護を 契約をしており、利用者の心身の状況を見てもらい、 医学的連携は主治医に報告、介護的連携は介護職員と 引き継ぎをし、介護に大いに活用している。訪問看護 との連携で、月1回の社外研修や年1回の社内研修を 行っている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 職員一同が毎日交互に病院にお見舞いをし、入院中の 情報も把握に努めている。ご家族、医師、看護師、地 域連携室とも相談を行い、ご本人には「みんなが待っ ているよ、早くお元気になってくださいね」と伝え、 不安の軽減を図り、早期回復や早期退院に向けての協 力体制を行っている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所時のご家族の終末や危篤時の意志を確認し、かか りつけ医とも連携を図り、推進会参加の地域の方 にも、当ホームの方針を共有し、終末介護が必要な方 には、家族とも綿密に相談や報告を行いながら、最期ま で職員一帯となって、介護や支援をさせていただいて いる。</p> <p>(外部評価) 入居時に「医療連携体制に係る指針」に基づいて、看 取り支援が可能なことを伝えている。今年の1月に看 取りを支援した事例がある。かかりつけ医と家族が話 し合いを重ね、最期まで口から食べることができよう 支援した。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 社外研修参加、職員会議での社内勉強会、消防職員を招いての救急訓練などに加え、緊急連絡体制の点検、医学的連携のための係りつけ医、訪問看護への連絡・相談体制を実施している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の自主消防訓練、地域防災訓練への参加、運営推進会での地域住民との災害時の避難体制を話しあっており、住民から「こっちの方向がお年寄りの避難順路にいいよ」等、アドバイスもいただく。利用者と職員にも情報を共有し、予期せぬ災害に備える体制をとっている。 (外部評価) 昨年11月に、初めて地域の防災訓練に職員と利用者2名が参加した。又、運営推進会議等を通して、地域に協力依頼をしている。今年1月にスプリンクラーを設置した。玄関にはヘルメットを2個掛けており、防災リュックは玄関とベランダに通ずる所に用意している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者個人の人格を尊重し、ホーム主導ではなく、利用者様に直接外出希望先を訪ねたり、お誕生日に本人の意向をくみ取った手作り料理を作ったり、など本人に声掛けして、対応をしている。個人情報管理を徹底し、プライバシーを尊重する対応を常に心掛ける。 (外部評価) 女性利用者の中には、入浴等、男性職員の支援を拒む方もおり、本人に聞きながら納得のいく対応に努めている。調査訪問時、職員は、農業に携わっていた利用者のアドバイスを仰ぎながら、ジャガイモを植え付けていた。職員は「今後さらに、利用者の意欲を引き出せるような言葉かけ」に工夫していきたいと話していた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 家族や記録を元に本人の趣味を把握したり、本人に「やりたいことは何ですか、行きたいところはどこですか」と問いかけ、本人の希望を何うようにしている。また、話しやすい雰囲気を作ることに日々工夫し、職員同士で情報を共有する。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 摂食時間が長い方、お風呂の早い順がほしい方、散歩の歩幅が遅い方、など、利用者個人の性格や体調を考慮し、その人のペースに合わせた対応を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2ヶ月に1回の訪問散髪を利用、季節の洋服のために買い物同伴、オシャレの為に毛染め・お化粧の手伝い、パーマかけたい方、自宅に洋服取りに行く方は外出支援など、行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事時間はテレビを消し、音楽で楽しい時間を演出する。食事前のお盆並べ、食事後の下膳など、できる利用者と共にしている。 (外部評価) 配色サービスから届いたおかずを温め、ご飯は事業所で炊いて配膳している。職員は終始、立ったままの状態で見守り等して介助していた。職員は、利用者の食事が終わってから、持参したお弁当等を食べている。調査訪問時には、おしぼり作りをする利用者が見られた。誕生日や行事時には、ちらし寿司等、利用者の希望を聞き手作りしている。	グループホームの食事支援のあり方について話し合い、利用者主体の支援が実践できているか点検、再考する機会にしてほしい。食事を楽しむという観点から利用者の力を活かした支援、利用者の好みや習慣を踏まえた支援が期待される。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考え、配食サービスにて一日600～800Kcalを提供している。食事量・水分量も毎回チェック・記録を行い、職員が把握する様にしている。嚥下困難のある利用者には、トロミ剤を使用したり、ゼラチンによるゼリーを作り、水分補給をする様にしている。脱水症状にならない様に利用者に声掛けし、水分摂取をして頂く様に気を付けている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝と夜の洗面の時に自分で出来る方は声掛け・見守りを行っている。歯磨きの出来ない入所者はスポンジブラシや濡れたガーゼで口腔内を拭いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 介護記録に排泄チェックし、個人別に随時のトイレ誘導を行い、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。尿意や便意の無い利用者にも、トイレに座ってもらう時間をもうけ、トイレでの排泄が可能になる様に支援している。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄パターンを把握して、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 介護記録に排便のチェックを行い、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。便秘の方には水分補給や乳製品を摂取して頂いたり、散歩等の運動を勧めたりしている。下剤を利用されている方でも、便秘になられる方がおられるので、随時排便チェックを行い、適宜調整を行う様にしている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 介助の少ない利用者には、本人の希望する日時に入浴をして頂いている。また、介護の必要な利用者には、心身状態の観察を行い、声かけを行いながら適宜(週2~3回)入浴をして頂く様にしている。又、着脱や洗身の行為ができる方はしていただいている。	
			(外部評価) 毎週、月・水・金曜日が入浴日となっており、利用者に希望を聞きながら支援している。湯を入れ替えてほしいと希望する利用者には、対応して支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう生活支援をして、夜間巡回時に足音に気をつける。各利用者の状況に合わせて、休息や昼寝を取って頂ける様に支援している。日中の活動を促し、生活リズムを整える様、努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>(自己評価) 1週間分の薬を仕分けし、職員が毎食時に個人別に抜き取り、服薬確認・記録を行っている。薬の変更や追加等があった場合は、グループホーム日誌や介護記録に記入し、情報共有が出来る様にしている。また、いつでもファイルを見てお薬の情報を見られる様に綴じている。個別契約による訪問薬剤管理指導も薬剤師が来訪している。</p>	
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 庭の手入れが好きな利用者には、草取りや水やりをして頂いたり、洗濯物を取り入れたり、たたんだりして頂いている。また、トランプが好きな利用者には、週に1回程度トランプを行い、喜んで頂いている。</p>	
49	18	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の希望に合わせ、散歩や買い物等の外出を行っている。体調等を見ながら、季節の移り変わりがわかるよう、奥道後のお花見したり、神社仏閣のお参りなどに出かけ、気分転換等を行っている。近くの家族の墓参りに定期的に行かれる利用者もサポートしている。</p> <p>(外部評価) 日々の散歩や買物等、利用者個々の希望に沿った支援に努めている。外に出て庭の草花に水やりをする利用者もある。地域の神社の餅まきに、2名の利用者が出かけられるよう支援した。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>(自己評価) 家族からお小遣いをもらって自分で管理されている利用者がおられますが、買い物時には、職員が同行して使い方(小銭を出したり)をアドバイスしたりしている。管理が困難な利用者で買い物が必要な場合は、家族に連絡を取りお買い物をして頂いている。(領収書・レシートで代金を立て替えている)</p>	
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者が連絡を取りたい場合は本人の代わりに電話をかけて本人に取り次いたり、家族から電話があった際には本人につないで会話をする時間を取ってもらったりして、家族とやり取りが出来る様に支援を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>庭で咲いた花をテーブルに飾ったり、廊下にその季節に合った壁絵を飾ったり、写真を貼ったりして、その時々季節感を取り入れる様に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>民家改修型の2階建ての事業所である。玄関壁に沿って季節の花が植えられ、庭には椿や水仙が咲いていた。玄関には、瀬戸物の立ち雛が飾られ、廊下の壁には利用者の書初めが貼られていた。調査訪問時、食卓で折り紙を楽しむ利用者が見られた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>1人1人の居室を設けているので、独りになれる時間も取れ、ホールやソファのある部屋では気の合った入所者同士の会話ができる。民家ならではの長所をいかせる工夫を継続する。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人が以前から使用していた箸、湯呑み、布団、時計があったり、気に入っている人形、アクセサリ、写真があれば、本人の手の届く場所、分かる場所に置いておく。又、気に入った物が現れた場合は家族さんに連絡、持って来て頂く。</p> <p>(外部評価)</p> <p>1階に3部屋、2階に4部屋あり、2階は階段昇降が可能な利用者の居室となっている。テレビやタンス等が持ち込まれていた。居室の掃除をする利用者は、ベッドの布団をきちんと足元に畳んでいた。ベランダに布団を干している居室もあった。自身で購読している新聞や書物を読んだり、CDを聞いたりする利用者もある。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>各居室に名前を掲示し、分かりやすく居室を出入りできるようにする。階段の乗降時に足のふら付き、転倒の危険がある方は本人・家族と相談の上、2階から1階に部屋替えをする。外出嫌いや運動嫌いの方に立位保持や下肢筋力のために室内の手すりや階段を生かすなど、利用者の安全と自立のための生活環境づくりを工夫する。</p>	